

介護老人保健施設

ほのぼの苑

だより

発行所
〒018-1401
蕨上市昭和太久保字街道下92-1

医療法人 正和会
介護老人保健施設
ほのぼの苑

TEL (018) 877-7115
FAX (018) 877-7481

ホームページ
<http://www.seiwakai-akita-noi.or.jp>

編集責任者 加藤稔樹
発行責任者 小玉敏央



12月5日、入苑者のご家族より北浦漁港にてハタハタを頂きました。
頂いたハタハタは12月8日の昼食バイキングにおいて、姿煮やしよつる鍋
に調理し、入苑者の皆さんで美味しく頂きました。ありがとうございました。

作陶会

皆さん、正面玄関に展示している作品を見て頂けたでしょうか。先月の誕生者とご家族の方で作上げた記念作品です。

作品作りでは、皆さんどんな物を作るのか、ご家族の方と悩んだり、悪戦苦闘している姿がありました。それでも、思い思いの作品を真剣な表情で作上げていました。ご家族の中には、陶芸経験のある方もいて、とても手の込んだ作品を作り上げてようと頑張る方もおりました。

ご家族の方に、「こんな誕生会は初めてで、楽しかったです。とてもいいと思いますよ。」との言葉を頂き、今までの不安が吹き飛んでいくような思いがしました。出来上がった作品は、陶芸家顔負けの作品ばかりで、皿、小物入れ等・どれも素晴らしいものが出来上がりました。

今回の焼き物は、どこの家庭にでもあるオーブントースターで焼き上げた物です。私たち職員も、陶芸は初めての経験で、うまく焼き上げることが、出来るのか不安でしたが、乾燥させてから二日後、作品を焼き上げると、味のある色合いになり、思った以上にうまく焼き上がりました。今までの誕生会とは違い、私たちからプレゼントを贈るのではなく、自分達で記念品を作ることで心に残る思い出の一ページになってくれれば、幸いだと思っています。

今回の作陶会を無事終える事ができたのは、一緒に参加して下さいましたご家族の皆さんのご協力があったからこそだと思います。ありがとうございました。

改めて誕生者の皆さん、お誕生日おめでとうございました。



女性と化粧

十一月二十三日に、入苑されております十一月の誕生者の方々と、そのご家族を迎え、陶芸作りと女性の誕生者の方々のみ、ノニア化粧品品の菅原様に、お化粧をして頂きました。

初めは、「若い頃は、家事や農作業に追われ、化粧をする暇もなかったから、今更恥ずかしい。」と皆さん話されておりました。しかし、「二年に一回しかない誕生日を祝う貴重な時間ですので、口には化粧だけでも差して、記念写真を撮りませんか？」と話す、「せーば、口紅だけなら良いよ。」と承諾して頂き、お化粧会が始まりました。

テーブルに並べられた化粧セットの数と、色鮮やかなアイシャドーや口紅を目の前にした入苑者の方々の目は輝き、初めは化粧する事に抵抗のあった方も、メイクさんに「どの色がよろしいですか？」と聞かれると、嬉しそうに「この色」と選んでおられました。その様子は、少女が初めて化粧をし、おめかしするような初々しさを感ぜ取れてました。化粧終了後、女性誕生者の方々は、鏡越しにいつもと少し違う自分を見て笑みを浮かべ、「今日は本当に良い日だ。」と喜ばれておりました。

今や化粧は、女性の身だしなみの一つで、普段から化粧をする人が多数だと思えます

が、昔は何か特別な事がない限り、あまり化粧をする事がなかったと聞いたことがあります。女性は化粧する事によって若返ったり、顔の表情が明るくなったり、少し変わった自分を見て満足したり、自分の中に秘めた青春時代を思い出すきっかけの一つになるようにも思えます。

私たちは、日頃、入苑者の方々にこういった事で喜んで頂けるのか、どのように楽しく入苑生活を送って頂けるのかを考えて仕事をしております。今回は、お化粧という形で誕生者の方々に喜んで頂きましたが、今後も色々な行事など計画していきたいと考えております。



今月の小豆知識

「今月の小豆知識」とは、介護する上でアドバイス等を、豆知識よりさらに細かく、より味わい深い内容で、ご紹介するコーナーです。

共同住宅『フレディ』

この度、共同住宅『月星』に続き、十二月二十日に共同住宅『フレディ』が完成します。各共同住宅は、童話に因んだ名称を考えておりますが、『月星』は、宮沢賢治をもとに考えました。そして今回、『フレディ』の命名に至った童話『葉っぱのフレディ』を前後編に分けて、ご紹介したいと思います。



葉っぱのフレディ、いのちの旅

前編

春が過ぎて

夏が来ました。

葉っぱのフレディは、この春、大きな木の梢に近い木に枝に生まれました。

そして夏にはもう、厚みのある、立派な体に成長しました。

五つに分かれた葉の先は、カ強く尖っています。

フレディは数えきれない程の葉っぱに、取り巻かれていました。

初めフレディは、葉っぱはどれも自分と同じ形をしていると思っていました。やがて、ひとつとして、同じ葉

っぱはないことに、気が付きました。

隣のアルフレッド、右側のベン、すぐ上のクレアは女の子です。みんな春に生まれて、一緒に大きくなりました。春風に誘われてくるくる、踊る練習をしました。日光浴の時は、じっとしているのが良いということも覚え

ました。夕立ちがくると一斉に雨に体を洗ってもらいました。



フレディの親友は、ダニエルです。誰よりも大きくて昔からいるような顔をしています。考えることが好きで物知りでした。ダニエルはフレディに、色々教えてくれました。フレディが木の葉っぱだ、ということ。木の根っこは地面の下にあつて、見えないけれど、四方に張っていて、だから木は倒れないこと。目の下にあるのは公園で、お

はようと挨拶にくるのは小鳥たちであること。月や太陽や星が、秩序正しく、空を廻っていること。そしてめぐりめぐる季節のことなど、みんなダニエルが教えてくれたことです。

フレディは「葉っぱに生まれて、良かったな」と思うようになり、友だちはたくさんいるし、見晴らしは良いし、枝はしなやかだし、その上、風通しも日当たりも申し分なく、お月さまは銀色の光りで照らしてくれるからです。

夏になると、フレディは、ますます嬉しくなりました。お日さまが早く昇って、遅く沈むので、たくさん遊べます。かんかん照りの暑さは、なんて気持ちが良いのでしょうか。夜になっても、昼間の暑さが残っているのですから、フレディは気持ちが良い、夢を見ている気分です。



公園に、木陰を求めて、大勢の人がやってきました。ダニエルは立ちあがり、「さあ、体を寄せて、みんなで陰を作ろう。」と呼びかけました。

フレディは、ダニエルに尋ねました。「どうしてそんなことをするのか？」するとダニエルは「暑さから逃げ出してきた人間に、涼しい木陰を作ってあげるとみんな喜ぶんだよ。」と言いました。ダニエルの言ったとおりでした。木陰に、おじいさんやおばあさんが集まって来ました。子どもたちも来ました。お弁当を広げる人もいます。フレディたちは、葉っぱをそよがせて、涼しい風を送ってあげました。

「フレディ、これも葉っぱの仕事なんだよ。」ダニエルの話を聞いて、フレディはますます嬉しくなりました。老人たちは木陰から出ないで、小声で昔の思い出を話しているようです。子どもたちは、木に穴を空けたり、名前を彫ったり、いたずらもするけれど、笑ったり走ったり、生き生きしています。



けれど、楽しい夏は駆け足で通り過ぎていきました。たちまち秋になり、十月の終りのある晩、突然寒さが襲って来ました。フレディも、仲間のアルフレッドも、ベンもクレアも、ぶるぶる震えました。みんなの顔に、白

く冷たい粉のようなものがつきました。朝になると、白い粉はとけて、雪がキラキラ光りました。「霜がきたのだ。」とダニエルが言いました。もうすぐ冬になる知らせです。



緑色の葉っぱたちは、一気に紅葉しました。公園はまるごと、如になつたような、美しいです。アルフレッドは濃い黄色に、ベンは明るい黄色に、クレアは燃えるような赤、ダニエルは深い紫色に、そしてフレディは赤と青と金色の三色に変わりました。

なんて見事な紅葉でしょう。一緒に生まれた、同じ木の、同じ枝だの、どれも同じ葉っぱなのに、どうして違う色になるのか、フレディには不思議でした。「それはねー」とダニエルが言いました。「生まれたときは同じ色でも、居る場所が違えば、太陽に向く角度が違う。風の通り具合も違う。月の光、星明かり、一日の気温、なにひとつ同じ経験はないんだ。だから紅葉するときは、みんな違う色に変わってしまうのさ。」

風が変わったのは、その後でした。夏の間、笑いながら一緒に踊ってくれた風が、別人のように顔をこぼらさせて、葉っぱたちに襲いかかってきたのです。葉っぱは堪えきれずに吹き飛ばされ、巻上げられ、次々と落ちていきました。

次号へと続きます。お楽しみに...

12 月の誕生会・行事のご案内

平成 17 年 12 月の誕生会は、お誕生日にご家族の皆様と一緒に
お祝いさせて頂いたり、苑内での記念パレード等の個人誕生会
を行います。個人誕生会の様子は、ベッド側の掲示板に掲示致
しますので、ご覧下さい。

23 日には、14 時から職員による楽器演奏を行いますので、皆
様ご期待ください。

12 月行事担当職員一同



十二月お誕生日の方々
おめでとうございます。

ほのぼの掲示板

お正月期間外泊のご案内

お正月に外泊を希望される方は、お菓
やお車での送迎の準備がございますので、
お早めにお知らせ下さい。

面会者の方へお願い

インフルエンザ・感染症流行の時期となっ
ております。入苑者への感染防止のため、
風邪・発熱・嘔吐の症状がある方は面会を
ご遠慮下さいますようお願い致します。
また、症状の無い方も手指消毒に
ご協力お願い致します。



幸福

十二月に入って、天候は荒れ、真冬日が続
いている。先日、男鹿から入苑されている方
の家族の方より、ハタハタが大漁だから、北浦漁
港まで取りに来て欲しいとの連絡が入り、車
を走らせた。港は、人と車で賑わっており、活
気に満ち溢れていた。今でもすこいのには、昔の
漁港を考えると、それはすこかつただろうと
思えた。ハタハタは、湖東老健、五十嵐記念病
院、ケアホーム木精等、私たち仲間の施設で
も急速、食事に組み入れられた。ほのぼの苑
では、昼食バイキングにみんなに食してもら
い、大好評であった。

昔は、毎日三食にハタハタが食卓に上がり、
ウンザリした記憶がある。しかし、高級にな
り、年に何回かしか食べられない。子供たち
は、大喜びであり、ぶりこを争う。私は昔、食
べ過ぎたせいか、ハタハタは子供に譲ることが
できる。子供思いの優しい父親である。

時々、ハタハタは食べることが出来るが、昔
食べ過ぎたものの中に、今は食べられないもの
がある。小学校の給食によく出たくら肉で
ある。こればかりは、いつか食卓に出ることが
あっても、最初は子供には渡らないと思う。

編集後記

今号で平成十七年のほのぼの苑だ
よりも最後となりました。次号が完成
する頃には、ホームページの大幅な内
容変更も予定しておりますので、併せ
てご覧下さい。

それでは、来年も「Public Relations
Committee (広報委員会)」の活動に
ご期待下さい。

(カ)